

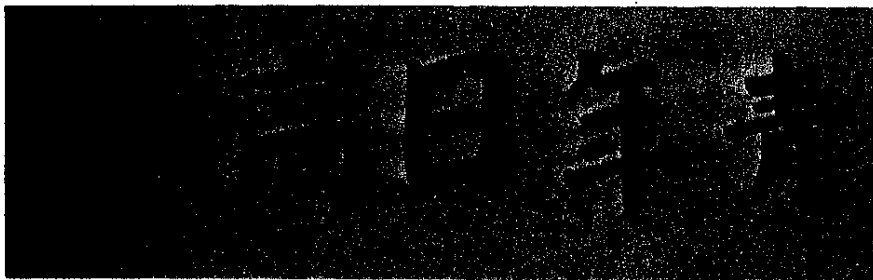
田高の夢ゆめ

風雲に附えて

田高文行百年記念誌

田高の夢ゆめ

田高文行



昭和47年9月に日高支庁が開庁百年を迎えるにあたり
堂垣内知事の揮毫による書

題字

高津安之丞

元北海道浦河高等学校教諭

書林 参与

序 文

明治五年九月、日高支庁の前身である浦河支庁が開設されてから、昭和四十七年で満百年を迎えました。このたび、この日高支庁開設百年の記念事業の一環として、当管内の発展の経緯を明らかにするため記念誌『日高のあゆみ』を発刊いたしました。

日高は道内でも比較的古い開発の歴史をもっております。

この間先人各位の不撓不屈の開拓魂で風雪に堪え、苦難を忍び、たくましい実践力をもって今日の郷土「日高」を作りあげたのであり、ここに管内の開拓につくされた先人の偉業に深く尊敬と感謝の念を捧げ、その業責を讃える次第であります。

私どもは、当支庁開設百年の記念すべき契機としてあらためて我々に課せられた重大な使命に思いをいたすものであります。

したがって、本誌は郷土に対する認識をさらに深めて、将来に向って、日高の発展に寄与できるようなものとなるならば真に意義深いことであろうと思います。

なお、支庁としても、日高の夢と希望を現実のもととして形づくるため、今後も管内各町と密接な連携をとり住民各位のご支援をいただきながら、豊かな可能性を秘めた「青年日高」がいよいよ華華しく開花するときが来たことを信じ当管内がますます発展するよう努力する決意を披れきする次第であります。

おわりに、本書発刊にあたり終始なみなみなご努力をもって執筆いただきました畑中武夫氏に深甚の謝意を表する次第であります。

昭和四十八年三月

北海道日高支庁長

川 端 武 史